

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375601370
法人名	有限会社ライフサポート・タカラ
事業所名	グループホーム七宝
訪問調査日	平成 20 年 12 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 31 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2375601370		
法人名	有限会社ライフサポート・タカラ		
事業所名	グループホーム七宝		
所在地	海部郡七宝町大字下田字江西66-2 (電話) 052-443-5501		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年12月9日	評価確定日	平成21年1月31日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	12月	1日			
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	11人	常勤	5人,	非常勤	6人,	常勤換算	6.3人

## (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り			
	2階建ての	1	～	2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有(	円)	無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(	円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	300	円	昼食	500	円
	夕食	500	円	おやつ	実費	円
	または1日当たり					円

## (4) 利用者の概要(平成20年11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	5名	要介護2	8名			
要介護3	4名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	84歳	最低	70歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立尾陽病院、井田歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から5年が経過しているが、2ユニットで10人以上が開設当初からの入居者である。多少の日常生活動作の衰えは認められるものの多くの入居者が安定しているのは、この法人が病院を柱として医療・介護のネットワークを確立している、この事業所を側面から支えきめ細やかな生活支援がされているからと思われる。家庭に近い設備のため事業所で対応できなくなった入居者に対して退去基準を設けているが、法人内の相談員が本人にとってより良い居場所を提案している。近くに同法人の病院や介護老人保健施設がありなじみの場所になっているので、本人や家族には心強い。管理者をはじめ職員は、雑務に忙殺されながらもゆったりとした言葉かけや振る舞いを守り、事業所内の雰囲気をやわらかく温かなものになっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は前回評価の改善課題をリストアップし会議などで検討した。地域との関わりについて十分な成果が見られる。日常生活動作が低下した入居者で事業所で対応できなくなった場合については退去基準を設けるという結論を導き出した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は常勤者すべてに自己評価表を配布し、項目を理解し自分の意見を記入することを求め、管理者がまとめるという手順で取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 隔月で開催している運営推進会議では入居者の実態やサービスの実態を報告し意見を求めている。町職員、地域住民、家族代表などの参加協力が得られており、子どもみこしの立ち寄りや住職の法話訪問など地域への広がりに繋げている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月の「利用状況・近況報告書」送付時に「ご意見・ご要望記入用紙」を同封したり、家族への電話連絡時に意見や不満を汲み取り運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 秋祭りには子どもみこしが立ち寄り、入居者と子どもたちとのふれあいが広がっている。月に2回、近くの住職が法話に訪れたり、地元の人たちがボランティアとして慰問に訪れており、事業所はこれらの交流を歓迎し継続できるよう努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく、暮らしていける心身の支援をする」と掲げ、医療法人の事業所ならではの理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を軸に職員は「のんびりと明るく」毎日を過ごすことを大切にして、5つの理念を実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りには子どもみこしが立ち寄り、入居者と子どもたちとのふれあいが広がっている。また月に2回、近くの住職が法話に訪れたり、地元の人たちがボランティアとして慰問に訪れており、事業所はこれらの交流を歓迎し継続できるよう努めている。	○	自治会への加入など、住人としての義務と責任、恩恵について検討が望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は常勤者すべてに自己評価表を配布し、項目を理解し自分の意見を記入することを求め、管理者がまとめるという手順で取り組んだ。過去4回の外部評価も具体的な改善への取り組みに役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催している運営推進会議では、入居者の実態やサービスの実際を報告し意見を求めている。町職員、地域住民、家族代表などの参加協力が得られており、話し合いが効果的に機能しサービス向上に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町職員に事業所や入居者への理解を深めてもらう機会として、役場に用がある時には入居者同伴で行き、サービスの質の向上に協働できるような環境づくりをしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、入居者の担当職員が生活情報・医療的情報・個々の取り組み・外出・来月の予定など項目立てした紙面に個々に手書きで記入した「利用状況・近況報告書」を家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で苦情相談機関について分かりやすく掲載している。「利用状況・近況報告書」送付時に「ご意見・ご要望記入用紙」を同封したり、家族への電話連絡時に意見や不満を汲み取り運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一人の職員が辞めるとその後採用した職員が定着せず交代回数が増えることがあったが、短時間のパート職員の人数を増やすことで入居者に顔なじみを増やしておき、職員の交代ダメージを減らす工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は新人が夜勤を始める時には何回か一緒に勤務し、仕事内容を実践でトレーニングしている。事業所内でも勉強会を持ち法人の研修会や外部研修にも受講できるよう支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会が開く研修会に参加し他事業所と意見交換をしている。また、同法人内のもう一つグループホームと共にサービスの質の向上を目指して研修をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内に相談員がいて、利用希望者と事業所のその時々状況に応じて、本人や家族が安心できる方法を選択し、入居に結び付けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長期にわたる入居者は、新人職員に事業所でのやり方を教えたり菜園を管理したりと自主的な動きも多く見られ、職員の代わりに他の入居者の世話をしたりと本人のやる気を尊重し支えあう信頼関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	花好きな入居者には窓から眺められるようにプランターを設置したり、天気が悪くなると帰宅願望が出る入居者には傘を持たせ落ち着くまで職員が寄り添うなど一人ひとりの思いを受け止める支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランチェック表では個々の入居者の短期・長期目標を掲げ、達成評価を日々○や△などで記録し毎月の評価を文章にしている。職員全員が介護の実情を共有し、介護計画に反映させている。本人や家族にも伝え意見を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員の気づきや家族から聞き取った意見も踏まえ6ヶ月ごとに新たに介護計画を作っているが、日々のケアプランチェック表の記録から変化が認められた時は、速やかに変更できる仕組みを作っている。見直し計画は、本人や家族に説明して了解を得ている。	○	3ヶ月ごとに介護計画を見直されることが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の病院に職員が同伴し、医療面での便宜性と安心感を本人と家族に提供している。法人グループの家族会への参加を呼びかけ、医療・福祉の両面からの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の内科医が週に1回往診し、かかりつけ医になっている。異変がある時は、職員が病院へ伴い診察を受けているので事業所、かかりつけ医、本人とスムーズな連携ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての退去基準を設け、継続した医療の必要性や自立支援が出来ないほどの身体レベルの低下があれば、本人にとってより安らかな居場所へ移るよう家族に了解をとる手順を整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	記録書類は入居者や家族の目が届かない場所に保管し、また、シュレッダーを活用し情報が他に漏れない配慮をしている。職員は個性を理解し尊厳を損なわないよう入居者個々にあわせて言葉かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後は自室で過ごす人、リビングでちぎり絵に没頭する人、洗濯物の乾き具合をチェックする人、洗濯物をたたむ人など押し付けるのではなく個々の自発性を大切にした過ごし方を支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	机拭きは私の仕事、盛り付け配膳は私というように各入居者は担当する食事準備を生き生きとこなしている。職員は介助の必要な入居者の隣に座り、皆が家族のように打ち解け、和やかな雰囲気です。	○	調理された料理が業者によって運ばれてきている。汁物は事業所で温めなおしているが、温かい方がおいしく感じられる料理は温めて食卓に出せるような取り組みが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴が原則だが、希望すればもう一方のユニットの風呂に入ることが出来るので、毎日の入浴も可能にしている。午前と午後でお湯を入れなおし、一人30分以上ゆつたりと入浴を楽しめる支援をしている。	○	希望により入浴順を考慮しているが、希望があれば夜間の入浴にも対応できるよう検討が望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちぎり絵で毎月のカレンダーを作ったり、花を活けたり、菜園で野菜作りにかかわるなど個々の入居者の能力を活かせる場を提供し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	5分散歩という言葉で入居者を誘い、事業所の外の空気に触れることを大切にしている。職員と1対1で外出する日、外食、喫茶に出かける日を定めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は勿論のことベランダに出る掃きだし窓も開錠しており開放的である。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と共に避難訓練をしている。「駐車場を避難場所と定め法人からの救援隊を待つ」など手順を取り決めている。	○	地域住民と一緒にした地震対策の検討が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事摂取量が把握できおり、変化があるときは日々のバイタルチェック表に記し、往診時に提供できる資料としている。水分は入居者が各自ペットボトルを手元に持ち、摂取量が確認できる仕組みを作っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースや居室から窓越しに遠くまで景色が見渡せ、四季折々の自然が感じられる。太陽光が足りない場所は日中でも明かりをつけ、明るさの均一化に配慮している。庭に咲く花を活けたり、季節感が溢れたクラフトを壁に貼ったりして安らげる空間作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はなじみの物を持ち込み入居者の個性が出ており、本人が心地よく過ごせる空間作りを支援している。洗濯に出す衣類入れは職員が箱に布を張り手作りしている。		

※  は、重点項目。